

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者とそのご家族の間にグループホームがあるという位置づけで、ご家族や地域との関係が途絶えないような自然体の暮らしが続けられるように支援していく。	○	今後はさらにご家族や地域の方々の支援を受けられるようにしていきたい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時または月例会やミーティングなどで常に共有化を図っている。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議などを通じて地域の人々には理念を伝えるようにしているし、また町内会に入会し、グループホームの中で会合を開くなどして理解してもらえるようにしている。	○	やっと町内会への入会も果たしたので、今後は、これをきっかけに地域に広がるように努力する。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町内会に入会したり、近隣には挨拶に行ったりしている。	○	さらに努力する。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の小学校の行事などには常に参加させてもらっているが、町内会に入会することで市民センターなどの催し物にも参加している。	○	もっと積極的に参加する。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	なかなか実現にはいかないが、地域での介護相談窓口や施設でバザーを開くなどしたいと話し合っている。	○	介護相談窓口やバザーなど実現に向けて取り組みたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	過去に受けた外部評価の経験のある職員は意義を理解しているが、今回が初めての職員はまだ意義を理解するにはいたっていない。	○	評価の意義を職員が理解できるように努力する。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新規開設以来、初めての外部評価になるためにまだ運営推進会議での報告はしていない。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターとは連携をとっている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会などで学ぶ機会はあるし、必要があれば説明はしている。	○	さらに外部の研修にも参加させたい。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	うちのグループホームではどういことが虐待なのかという例を挙げ、内部研修で学ぶ機会を作っている。	○	外部研修に参加させる。
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には詳しくは説明するものの少し不足しているところもあるかもしれないと思われる。	○	契約の際には詳しくは説明するものの、いざ退所となると現在医療が認知症高齢者にとっては厳しいものであるため十分に納得されるまでにさらに時間をかけたいと思っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者が不満を訴えるときは、職員がそ の内容について詳しく聞くが、それでも解 決できないときはご家族に電話したりし て、内容は職員間で共有している。	○	職員側に、この行動は「なぜなのか？」 という視点がかけられているところをさら に指導していきたい。
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	毎月のケア報告書や、お預かり現金の出 費明細書などで、また写真なども織り込ん だこまめな報告をしている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ユニットも入り口に、ご意見箱など設 置しているが、なかなか意見が出されるこ とはない。またご家族が画面会の折には、管 理者がこまめに声かけしている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	毎朝の申し送りや午後のミーティングな どで職員の意見は常に聞くようにしてお り、また問題があるときは月例会で話しあ うようにしている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	以前に比べて利用者のレベルも低下して おり現在の勤務体制では無理な部分も出て きたために、職員の意見を聞きつつ少しづ つ調整中である。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、職員の異動や退職は少ない。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	もともと性別や年齢での区別はしていないが、最近特に人材不足で、とにかく働いてくださる方はほとんど採用している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	内部研修や外部研修で学ぶ機会を設けている。	○	交代勤務のために、全員一緒に研修というわけにもいかないが、何とか教育時間を確保しようと思う。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	働きながら、介護福祉士や社会福祉士また社会福祉主事など個々の資格を受ける機会は確保しているし、法人内の研修には参加しているが、一般職員に関しては、なかなか外部研修を積極的に受けさせるまでにはいたっていない。	○	個人的には社会福祉主事や介護福祉士などの勉強をしているが、その他の研修にも参加させたいと思っている。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とはよく連絡を取っているし、お互いに交流する機会を持ちたいといいつつ、業務に追われて月日が過ぎていくという状態である。	○	さらに同業者との交流を図りたい。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員の休憩室は別に確保しているし、食事時間などは職員も利用者とともに癒されるような音楽を聴いたり、室内飾りを工夫したりして、環境づくりに取り組んでいる。	○	認知症の介護は、ストレスがたまるが、職員の異動や職員同士のコミュニケーションを図ることによって軽減していきたいと思っている。
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各職員が、資格を取ることを奨励しており勤務は希望にあわせている。全員向上心を持って働いてはいるが、なかなか正職員登用の道がなく、向上心もしほみつつある。	○	さらに介護職の労働条件や給与体制について上司に訴え続けていこうと思っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	日々の中での交わりで、利用者の話を聴く機会は多くあるので、できる限りのことはする努力はしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族とは面会時に必ず声かけをして話を聞く機会を作っているし、何かのときはこまめに電話連絡している。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学や相談にこられたときは、当グループホームに入所されるか否かにかかわらず、できる限りの介護相談には応じており、特に認知症に関しては詳しく相談に応じている。また他の施設も紹介している。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	認知の進んだ利用者にとって、本人がサービス利用を納得というのには限度があると思われるが、徐々に馴染めるように家族と相談しつつ努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に食事の用意をしたり、縫い物をしたり買い物に出かけたりして、喜怒哀楽をともにしている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	グループホームでの面倒見がよすぎて、ご家族が支えていく場が少ないと思われる。	○	今後はご家族に協力を仰ぐような、体制作りに励みたい。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入所に至るまでの経緯など、ご家族からの話を引き出すことにより少しづつお互いを理解し合え、よいコミュニケーションが取れるようにしている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	できる限りの外泊、面会、家族との食事などに出かけられるように支援している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	家具の配置を変えたりして、なるべく穏やかに過ごせるような工夫はしている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用に関係なく、入院時の面会や食事介助や介護に関する相談や亡くなられた時のお参りなど、最後まで関係を大事に考えて実行している。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の行動や会話の内容などから本人の希望することを少しでも見つけ出し、実現できるように職員で努力している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、それまでの生活歴や趣味などご家族に聞き取りしたり、その後は本人の会話や行動などから把握に努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の状況観察や、身体状況、現在飲んでいる薬や排便の有無などを総合的に把握して、介護に活かすようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	できる限り、本人の意向を確かめ、ご家族や日々介護する職員の意見を基に介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	急激な体調および精神状況の変化などに対しては、その都度みなどで話し合い、現状に即した内容の介護計画にしている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づいた介護支援経過記録また介護日誌など、日々の記録に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所19年4月に譲渡により、新規開設となったためにショートステイやデイ・サービスなどの機能がなく、多機能な支援はできていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	本人の意向はなかなか聞けないが、近隣の小学校とは連携を取って色々な行事には参加しているし、また図書館に出かけたりもしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用するような活動はいまのところしていないが、訪問マッサージをお願いしたり、階下のデイサービスなどと一緒に行事を楽しんだりしている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとは運営推進会議などで連携を取る以外は、困難事例のときは相談したりしているが、協働しているとまではいたっていない。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は毎月往診してもらっているが、体調不良者があるときは、その都度電話またはFAXで相談したり受診したりするが、その際、家族ともこまめに連絡を取り、納得のうえで適切な医療を受けられるように支援している。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	認知症に詳しい専門医と連携が取れており、常に相談しながら、治療を続けている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	現在のところ看護師との協働は行っていない。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	近隣の病院であれば、こまめに面会や食事介助等に出向き、入退院の世話なども一手にやっており、病院関係者と親密な関係を築くことで早期の退院につながるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者でそれぞれ事情は違うが、できる限り本人の希望はまたは家族の考え方を聞き取り、かかりつけ医とも連携を取って、職員全員と方針を共有している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	手厚い介護はするが、医療に関係することはできないという事は、はっきりしている。入院後どのぐらいで見極めるかなど、細かいことの取り決めがないために、今後に備えて検討したい。	○	病状が長期化した場合や認知症がある場合、その後の受け入れ先がなかなか見つからず、グループホームに期待されるが、それについては今後検討する予定。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	認知症の改善等で、移り住む場合、家族や本人と十分な話し合いを行って住み替え、落ち着くまで責任を持ってお世話している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	できる限り言葉かけには気をつけているつもりだが、たまにはプライバシーを損ねるような言葉かけをしてしまうこともある。	○	身体拘束や虐待また本人の尊厳にかかわることなので、内部研修に力を入れたい。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	いろいろと形を変えて利用者本人の希望を聞きだせるよう努力し、また実現できるように支援している。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに完全に合わせているわけではないが、なるべく本人の意思に従うように支援している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご家族が病院に連れて行かれたり、職員と一緒に買い物に行ったりして本人の希望する洋服を購入したりしているし、出張美容もお願いしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しいものとなるように、グループホームの職員が全員で食事作りに励んでおり、利用者さんが後片付けをしたりしている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在お酒やタバコをたしなまれる方はないが、おやつや飲み物は好きに楽しめるようになっている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表にしたがって、できる限りオムツを使用しないように工夫支援している。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	体調や精神状態に合わせて、入浴できるように支援している。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	休息は十分にできるように、また安心して眠りに入れるように、空調にも気をつけて夜間はこまめに巡回している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事の後片付け、散歩、ラジオ体操や仏壇掃除など、本人が笑顔で暮らせるような支援をしている。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	所持できる方には、買い物に行ったり、神社にお参りに行ってお賽銭を上げるなど、使えるような支援を考えている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のよい日は、わずかでも戸外へ、また気候がよいときは遠くまでドライブなどに出かけている。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	誕生日ごとに、ご本人の希望を聞き出かけた食事をしたり、他の家族に会いに行ったりと支援している。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のかけない方には、代筆したりまた電話は希望があれば自由にしてもらっている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	遠くからの面会では家族室に泊まっていたり、近くの方々は直々面会にこられ、ゆっくりしていただいている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全員が正しく理解しているとはいえないが、内部研修や身体拘束委員会などを設置して取り組んでいる。	○	今後もさらに取り組んでいきたい。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の方々に危険がある場合は鍵をかけることもあるが、基本的には日中は鍵をかけないケアをしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は1時間毎の巡視をし、日中は見守り強化で安全に配慮している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	特に注意を要するもの意外は、普通の家庭のような物品配置をしている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットなどで検討し、対策を練って事故防止に取り組んでいる。	○	さらに職員全員で知識を深め、事故防止に取り組みたい。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	なかなか定期的に訓練を行うまでには至っていない。	○	さらに職員全員で知識を深め、訓練を行いたい。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災訓練は実施している。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒の危険や、誤嚥など、また持病の危険など家族には説明している。	○	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化は特に注意しており、小さな変化も見逃さないように朝の申し送りや、介護日誌などで情報は共有しているし、即対応している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては、職員自らかかりつけ医と相談などしており、処方箋も常に見れるように配置し、また薬が変わったときは症状の変化にも気をつけるように指示している。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が認知症に及ぼす影響が大きい事は、職員全体が十分に理解しており、あらゆる形で飲食物の工夫や、散歩などに取り組んでいる。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、一人ひとりの口腔ケアを行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量などのチェック表はないものの、一応栄養士の決めた献立に従っておりカロリー計算はできている。また個人々の状況に応じて支援している。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	職員間での取り決めはあり、また感染に関する内部研修も行っている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の食材チェックや掃除、まな板、布巾などの消毒などルールを決めて、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建屋建築時に、市からの指導により急遽玄関位置の変更をしたために、建物としては裏側という感じがして、近隣の方にとっては、少し馴染みにくい感じがあると思われる。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が季節感を感じられるように、季節ごとに室内飾りを工夫している。また窓から見える風景にも季節感が感じられるために、洗濯物などで視界をさえぎらないような工夫をしている。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファやマッサージチェア、リクライニング足などを配置しており、座りたいところに座れ、また会話が弾むような配置にしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の慣れたものを配置してもらう様にしているが、認知症の激しい方にとってはなれたものでもわからないようになってきている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	常に換気には気をつけているし、空調温度も利用者に合わせて随時調節している。また、特ににおいのこもる部屋には空気清浄機を配置しているし、トイレなどは常に換気扇を使用している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがあり、また食堂椅子はすべて肘つきである。廊下は、車椅子が十分に行き来できる広さがある。また浴室は、ごく普通の家庭用で、利用者が違和感なく入浴できるようにしてある。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	現在のところ混乱するようなものの配置はなく、自立して暮らせるようになっている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダではプランターで野菜や草花を育てているし、また階下では畑も作っており、季節に応じた野菜を、近隣の小学生や利用者とともに作っている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている		①ほぼ毎日のように		
				②数日に1回程度		
			○	③たまに		
				④ほとんどない		
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
100	—	○職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどできていない		

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者のペースに合わせて、のんびりと援助を行っています。入居者の〇〇がしたい・・・はなかなか聞くことはできませんが、寄り添いケアを中心として、なるべく気持ちを汲み取る努力をしています。そして、その人らしさを失わないようにと心がけています。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所としての独自の理念はある。	○	家庭的雰囲気の中で、その方がいままで暮らしてきたことを出来るだけ継続していきけるように、家族の協力のもと援助を行なっている。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・職員が運営理念を少しずつ理解し、少しずつ近づいているところである。	○	入居者一人一人がその人らしい生活が送れるように日々のケアを振り返り、良い方法を考えている。
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	・理念が家庭的な雰囲気を損ねない形で、ホーム内に掲げられ浸透を図っている。 ・入居時に説明し、ご家族の同意を得ている。	○	家族には面会時など話の中で、協力が大切なことやそうすることで入居者の精神的安定が得られる事など話している。
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・地域で認知症の人が、普通に暮らすことの大切さや、グループホームの役割を書いたパンフレットを設置しており、施設の見学の際などに渡している。	○	入居者との外出の際など、ご近所の方には挨拶を行なっている。
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の町内会に入会している。今までは、地域の小学校の行事に参加したり、小学生と畑作業を通して交流を図ってきた。地域の行事にも参加してきた。	○	今後は町内会会員として話し合いにも参加し、地域の行事などへも意欲的に参加し、地域との交流を図っていきたい。
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	なかなか実現にはいかないが、地域での介護相談窓口や施設でバザーを開くなどしたいと話し合っている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価項目で出来ていなかった項目については意識しているし、改善に向けて進んでいる。	○	評価項目の意図、再確認を職員と一緒に行ないながら、更に質も向上、改善に努めていきたい。
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会の会員になり、今後、町内会の会議には参加するようになっている。活動報告や行事参加について話をしている。	○	
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町内会の会員となり、地域の行事などにも参加していく予定。	○	地域の中でのグループホームとしての役割を見い出していきたい。
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会や施設内研修などで学ぶ機会があり、相談者やご家族などへも必要なときは情報の提供を行なっている。	○	今後も必要に応じて情報の提供を勧めていく。
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に研修会を開催し虐待の啓発を行い、ホーム内でのケアの仕方を再確認している。	○	日々入居者へのかかわり方について、気になることは、話し合いの場を持つようにしていく。
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、納得して頂くまで十分に説明している。また契約解除の際にも、十分な時間をかけご家族への説明や行い、希望も考慮しながら、納得頂くまで話を詰めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族への電話などを行い、ご本人の訴え を聞いていただいている。その後は対応に ついて改善すべき点がないか、検討を行 なっている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をして いる	1ヶ月ごとにその月の健康状態や日々の様 子、出費明細などについて、ご家族に報告 している。行事参加などの写真も取り込ん で送っている。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とのコミュニケーションを図り、気兼 ねなく意見を言ってもらえるような雰囲気 作りをしている。意見箱も設置している。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	日常的に意見を出しやすい雰囲気作りをし ている。毎月定例会を開き、職員からも意 見を出してもらっている。	○	
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	家族や入居者の状況の応じて、適宜勤務調 整や話をしている	○	状況の変化に臨機応変に対応出来るように 努めていきたい。
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員とのなじみの関係や相性も考 慮し、異動などの際もダメージを最小限度 に防ぐように努めている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	60代の方2名の採用があり、体力的に無理が行かない様に配慮しているが、自分の特性を生かし、頑張って勤務されている。	○	今後も各職員の能力が発揮できるよう、働きかけを行なっていく。
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	施設内で研修会や新人研修など、人権教育を行なっている。	○	今後も人権の尊重、啓発活動に努めていく。
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修から始まり、毎月、施設内研修会などで、社長の言葉を直接聞ける機会があり、会社の運営方針など浸透しつつある。	○	職員の資格取を奨励し、職員の能力が十分発揮できるように支援していく。
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワーク作りや勉強会などには至っていないが、連絡を取り合っている。同業者は数件ある。	○	同業者との交流をなるべく持ち、勉強会やお互いの情報交換をするなかで、よりサービスの向上を目指していく。
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員が気分転換ができるように、休憩時間を確保している。職員間で気軽に話ができる雰囲気作りをこころがけている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員個々の努力、工夫など認め、その後の向上にもつなげるようにしている。資格取得も奨励し、その後も資格を生かして仕事ができるように運営者にも働きかけている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談者ご本人の困っている事、不安なことなど、まずは全部聞くようにしている。またホームの中を案内し、雰囲気を感じていただいている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談者ご家族が現在一番困っている事や不安な事などを、じっくり聞いている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に応じて、当ホームで対応ができる時は入居などの話をすすめるが、対応できない場合などは、他の施設利用のことや各種の情報提供を行なっている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気から徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	今までの環境が全て変わってしまわないように、家族の協力も得ながら外泊なども取り入れながら様子をみている。寄り添いながら様子の観察も行なう。キーワードを探す。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に過ごす家族のようにときには喧嘩したり、話をしたり、笑いあったりしながら、お互いから絶えず感じる事ができている。時には話しを聞き、ともに涙する場面もある。	○	更に入居者の理解に努めていき、共に・・・の姿勢で援助を行なっていく。
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会の時などは日頃の生活状況を話したり、家での今までの暮らし振りを聞いたりする中で、家族としての今までの苦悩を共感することにより、気持ちがより近づいていけるように感じている。	○	今後も一方的でなく、家族の気持ちも聞きながら情報の交換を行なっていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	お盆や御正月などには外泊のお願いをしたり、外出や面会をお願いしている。その際、喜ばれた様子なども伝えている。	○	家族と本人のより良い関係づくりが本人の状態安定にも関係することを、今後も伝えていく。
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	可能な限り行きつけの美容院や病院などに、ご家族と一緒に行って頂いている。	○	今後も声かけ、働きかけを行なっていく。
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	入居者同士の相性を考慮し、関わりをもてるように配慮を行なっている。その事が負担とならない程度に援助を行なっている。	○	その時々状況に応じて適宜必要な援助、働きかけを行なっていく。
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ホーム退去後も必要なときは、いつでも相談にのれる事や、気軽に訪問してほしい事をいつも伝えている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の訴えや言葉などには日頃より耳を傾け、意向になるべく沿うように援助をおこなっている。場面で、どうしたいか本人にまず聞くようにしている。	○	
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族なども、面会時などには今まで聞いていなかった生活歴など、お聞きし、本人らしい生活が少しずつ実現できるように努めている。	○	今後も家族に聞き取りを行いさらに把握に努めていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の様子を1日通して、いろんな場面での様子を日々の記録として残している。家事など、入居者それぞれできる範囲で関わりをもってもらう働きかけを行なっている。	○	今後もできることにも眼を向け、その事がその方を活気づけるきっかけになればと思います。センター方式に活用。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、家族の意向を聞きながら、また日々の様子から職員からの意見も取り入れ介護計画を作成している。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化や期間ごとに見直しを行い、必要に応じて介護計画の変更をおこなっている。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケアの工夫や提案などに日誌に記入し試用してみて、その後に実践している。また連絡帖などにも記入し、職員へのケアの徹底なども行なっている。	○	今後も日々も実践の中での気づきなど大切にしながら、より良いケアの実践に活かしていく。
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	体制が整っておらず、支援には至っていない	○	ご本人やご家族のニーズを聞きながら、現在の支援よりまだ柔軟な対応をこころがけていく。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防とは消防訓練にて協力体制がある。地域の図書館も定期的に利用している。町内会に入会することで、近隣からの協力も得られるようお願いをしている。	○	今後も地域とのコミュニケーションを密にとり、協力体制を確立していく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	御本人、ご家族の希望を聞き、ニーズに必要なサービスにより、他事業所の紹介やケアマネージャなどに引継ぎ、他のサービス利用につなげている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在のところは地域包括センターとの協働しての支援には至っていないが、時折相談は行なっている。	○	今後は運営推進会議などでも地域包括支援センターとの関りを深め、今後の支援に役立てていきたいと思っている。
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大きな病院などに受診も困難となり、ホームのかかりつけ医をお願いし、月1回は往診をお願いしている。また病状により家族の希望も聞きながら、他科や総合病院への受診の際には紹介していただき、適切な医療を受けられるようになっている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	かかりつけ医に日頃の状況を報告して、内科で処方している範囲での認知症に関する薬の処方をしてもらっている。必要時には脳神経外科などでの画像診断をして頂いている。又精神疾患が強い方も専門医受診し、ホームでの生活が落ち着いて出来るよう援助を行なっている。		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけ医との連絡は密にとっているが、入居者を良く知る看護職員との協働はない。訪問看護への相談などは、時折行なっている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中はなるべく見舞いを行い、状況の把握に努めており、退院の可能性があれば早期退院に向け、病院関係者や家族と話しながら、受け入れ体制を整える。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	適宜、病院関係者や家族との話し合いを重ね、ホームでの受け入れが可能かどうか充分話し、困難な場合はその後の受け入れ先も一緒に考え、一番良いと思われる方法を選択する。	○	ホームとしても、今後の課題として話を進めていく必要があると思っている。
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者が重度化してきたり、終末期に近いと思われると時期が来る少し前から、家族に意向を良く聞いておく必要がある。ホームとしての考えも、固めておく必要がある思っている。	○	各家族ともに、終末期などについて事前より話を進めておく必要があると思われる。職員も一緒に話に加わり、考えていく。
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居者の情報提供を行なったり、情報提供を求める事で、現在のケアの現状をなるべく大きく変えることなく、移り替えをするように努めている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人一人の入居者に応じた声かけを心掛け、気持ちを傷つけない様に、働きかけを行なっている。記録にあたっては、職員全体にて個人情報保護に努めている。	○	日々の生活の中でも、声かけや対応の仕方などについては、気づきがあれば見直しを行なっている。
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の訴え、気持ちの表出をしやすいような雰囲気づくりを心掛け、いろんな場面でも本人の気持ちを確かめてから、援助を行なうようにしている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の生活状況にあわせて、その方のペースも大切にしながら援助を行なっている。その時の気持ちなども、表情より汲み取るように努めている。	○	

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その方に合った着易い服装であり、なおかつ好みにも配慮している。また一緒に外出し、洋服を購入することもある。理美容も行きつけがあれば家族とともにしている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや味付けなど、持てる力に応じてやってみたり、食事は職員も一緒に行い、食後は職員とともに後片付けまでを一緒に行なっている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	食べたいものを、職員と外出の際に購入してきたり、ご家族の面会の際の差し入れなどもあり、各々で楽しんでいる。食べ過ぎたりするときは、こちらで一旦預かり、少しずつ渡す。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄の間隔などチェック表に日々記録を行い、失敗がなるべくない様に適宜声かけや誘導を行なっている。また心身状況などに応じて、おむつ類使用の検討も随時行なっている。やむなく失敗した場合も、速やかに更衣を行なっている。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	その日の体調、様子などにも配慮し、ゆっくり入浴ができるように配慮している。無理強いをせず、本人の気持ちも大切に、そのペースにあわせたものとなっている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	前日の睡眠状態や身体状況など把握し、適宜休息を取れるように働きかけをしている。夜間の不眠がある場合も、日中の活動性を高めたり、気分転換を図ったりするなど工夫している。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	それぞれの入居者がしたい事や行きたい所、また食べたいものなど聞き出し、可能な限り外出したり、外食したりして気分転換を図ったり、おやつなど一緒に作ったりして楽しんでいる。	○	今後も身体状況に応じたことが提供できるように、したい事など見出せるように努める。
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出の際や買い物なども、自らでお金を支払う機会をつくっている。能力に応じて小銭の入った財布を所持し、自分の思いにて気軽にお金を使えるようにしている。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	体調や気候に留意しながら、屋外の空気に少しでも触れることが出来るように、絶えず働きかけを行なっている。	○	外に出ることが億劫なりつつあるが、働きかけをやめずに継続していく。
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	日頃の言葉にも耳を傾け、可能な限り実現しようとするが、困難な場合は家族へも話をして、家族と共に行なう事が可能な場合は、ホームとして出来る事を支援し実現につなげていく。	○	いつも入居者の声に耳を傾けておく。
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望があれば、電話にて話をする事ができる。また季節ごとに大切な方、家族への手紙などのやりとりも行なっている。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	家族や知人などが気軽に訪問していただけるように、お部屋や居間などでゆっくりと話していただける配慮をしている。	○	今後も継続して居心地のよい雰囲気づくりに努めていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などについても、研修会の機会を持ち、理解を深める努力をしている。日々のケアの中でも、気がついてことは振り返り、話し合いの場を持つようにしている。	○	今後も継続して啓発活動を行なっていく。
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	落ち着かない入居者には、可能な限り付き添い及び見守りを行なう。隣のユニットにも協力をお願いしている。	○	今後も職員間にて意識統一を行い、見守りをしながら、職員間でも連携プレーがスムーズに行えるように努めていく。
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	各入居者の様子や行動を、絶えず見守っている。自室にて過ごしている方も、時折様子を見に行っている。時間ごとに居場所の確認を行なっている。	○	今後も入居者の安全を第一に考え、見守り、居場所の確認を継続していく。
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬品や洗剤は、使うときに保管場所より出して使っている。危険物は使うときは、十分見守りながら、その使用後は、確実に元の場所に戻すようにしている。	○	今後も危険な場面があった場合は、適宜管理の仕方を考えていく。
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者一人一人の状態により、転倒などの可能性がある場合は、危険物除去や移動時の見守りを行なっている。与薬は、間違いが起きないように与薬者を決め、確認をしながら行なっている。常に見守りを行なっている。	○	ヒヤリハットの活用をもっと行っていく。
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	数人のものは応急救護の訓練を受けているが、定期的な訓練にまでは至っていない。緊急時の対応ができるようにマニュアルはある。	○	全職員が救急に備えて対応ができるように、日頃より訓練を行っていく。

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に、消防局指導のもと昼間想定、夜間想定にて実際の避難の訓練を実施している。地域の方へも協力の依頼も行っている。消火器や消火栓の定期点検も行なっている。	○	火災に対しての訓練は定期的に行っているが、自然災害に対しては意識が希薄であり、いろいろな場合を想定しての具体的な対応を考えておく必要があるが、そこまで至っていない。
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現在の状況を毎月の報告書や面会時に伝え、予期できるリスクがあれば話を進めていき、どういう風に対応していくかを話したり、意見を聞いてたりしている。	○	入居者の身心の状況に応じて、状況の報告や今後起こりえるリスクを今後も考え、家族にも適宜伝えていきたいと思っている。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日々の観察や勤務者からも申し送り、記録などより、いつもとすこしでも違うことに目を向け、必要な場合は早めの受診を心掛けるようにしている。職員の対応も考えている。	○	日々観察も職員の連携プレーがあってこそのものであり、職員間での小さな気づきも大切にしていく。
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	月1回はかかり付け医の往診があり、その際服薬の結果の報告を行なっている。また入居者の服薬状況がすぐわかるように、毎回ファイリングしている。	○	今後は、入居者一人ひとりの服薬の状況などがわかりやすいように工夫していく。
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防に植物繊維が多い食材を出したり、散歩などを取り入れて腸の働きを促したり、生活の中でできる工夫をしている。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後歯磨きを行なっている。不十分なところは、職員が磨き添えを行なっている。	○	口腔ケアの重要性を話し、歯や義歯の管理をきちんと確実にできるような工夫や声かけを行っていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎月体重測定、食事摂取量などから、入居者各々で摂取量などを調節している。また水分不足にならぬように、お茶のお代わりなど勧めている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に対してのマニュアルがあり、初期段階より実行している。また早めの病院受診を心掛け、医師の指示を受けている。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	定期的に冷蔵庫や調理器具の清拭や消毒を行い、衛生管理に努めている。食材についても冷蔵庫内のチェックの日を決めて、日付けの古いものから使っていくようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	訪問者が入りやすい雰囲気づくりとして、親しみを持ちやすい様にベンチを置いたり、グリーンなどで玄関周囲に工夫を凝らしている。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓辺にはソファを置き、冬場などは暖かな日差しもあり、憩いの場となっている。居間は季節折々の飾りを施し、季節感を感じてもらえるようにしている。台所からは、食事の支度の音や匂いなど感じる事ができる。	○	今後も季節や入居者の状態に合わせて、落ち着ける空間づくりを心がけていく。
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のなかでもソファを数台用意し、気の合った人同士で座ったり、一人で静かに腰掛けられるよう椅子を置いている。	○	そんなに広い空間でないため、家具などの配置も考えながら、今後も工夫をしていく。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、なるべくなじみの家具の持ち込みをお願いしている。その後も担当者などが使い勝手がよ良いように、私物などの管理のお世話をしている。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎朝の清掃時には、各居室の窓を開放し、空気の入れ替えを必ず行っている。空調もつけっぱなしにせず、適宜入り切りを行ったり、窓を開け、喚起に努めている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床はすべてバリアフリーとなっている。また2階部分にあるホームまではエレベーター設置がなされているが、身体機能の状態により、階段での昇降も行っている。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの認知度に応じて自室の目印を置いたり、表示をしたりしている。入居者個人では、気になる事や物についても、気がついた時に速やかに撤去したり、問題解決できるような対応に努めている。	○	個々の様子を見て、混乱を招くであろうことやわかりにくいことなど見つけたら、いつでも速やかに対応する。
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ベランダに花やグリーンを置き、入居者が花の手入れをしたり、設置しているベンチで外の景色をながめたり、洗濯物を干したりできるようになっている。気候がよい季節などは、ベランダで桜見や食事をとることもある。	○	今後も入居者が少しでもほっとしたり、心が和むことができるように、ベランダの利用の仕方も工夫をしたい

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目						
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の		
				②利用者の2/3くらいの		
				③利用者の1/3くらいの		
				④ほとんど掴んでいない		
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんど掴んでいない		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果				
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)				
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

毎日をともに過ごしている家族のように、寄り添いケアを基本にして、入居者一人一人がその人らしい毎日を送れるように援助を行なっています。毎日の生活のなかで、何かひとつでも喜んでいただけて笑顔を見ることができるよう働きかけを心掛けています。